

「LGBT 法を G7 サミットまでに成立させる意味などない！

そもそも法律化する必要あるのか？

理念で留めた方が敵対関係にならない理由」

令和 5 年 5 月 11 日

●キムチ鍋さんからの質問

LGBT 法案について、G7 サミットまでに成立を求める意見があります。私は LGBT 法案に反対の立場ですが、どうして急にこういう話になったのかよくわかりません。西田先生はどのようにお感じになりますか？

●西田昌司の答え

昨日（5月8日）に LGBT の部会がありましたが、私は「サミットまでに成立させることに全く意味がない」旨の発言をしました。G7 には LGBT 法案に類する法があるのに日本はないから作ります、といった考えが背景にあるのですが、そもそも日本は G7 の中では宗教的な環境に関して事情が全く異なりますし、（日本以外の）G7 と比較することに意味がありません。

日本以外の G7 各国（フランス、アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、カナダ）は全てキリスト教国です。キリスト教やイスラム教は、厳しい戒律のある一神教ですが、一方、日本は多神教の国であり、神仏混淆の宗教観を持っています。キリスト教やイスラム教は同性愛を禁じていますので、神の意思に反するとして LGBT の人達は実際に迫害されてきました。そういった国において、法によって LGBT の人達を保護するのには意味がありますが、日本は元々そういった人達に対しては非常に寛容です。

日本には様々な神があり、良い神様もいれば悪い神様もいます。神様も千差万別であるからには、人も千差万別であり、その宗教観が自然・宇宙・森

羅万象につながっています。様々なことに対して包容力を持って認め合うのが日本人ですし、欧米と日本では LGBT の人達に対する対応がそもそも全く異なります。

欧米には LGBT 法を成立させるだけの立法事実があっても、日本にはほとんどないと言えます。立法事実がないのにもかかわらず法律を作るのは性急ですし、そういった方々に対してもきちんと理解しましょう程度の理念にとどめておいた方が無用な敵対関係を作らずに済みます。(理念法以上の、規制や罰則を規定する) 法を作ってしまうと、対立を助長させて社会を分断させてしまう危険があるのです。

過去にも、人権擁護法案なるものを日本において成立させようという動きがありました。LGBT 推進論者と同様の論法(世界には人権擁護法案に類する法があるから、日本においても成立させるべき)を当時の法務大臣や法務官僚が述べていましたが、私をはじめとした多くの自民党議員が大反対をして結局潰すことができました。

世界には、人種差別をはじめとして、深刻な人権問題が数多くあります。日本は世界で一番長い歴史を持つ国ですが、他の国は、革命で(前の政権を倒して)成り上がった政権、侵略で(前の民族を追い出した)民族、といった具合に、民族が入り乱れる闘争の歴史の上に国があるという状態ですので、負けた側が差別されたり迫害されたりすることが普通にあります。ですから、法律で保護しなければならないということになりますが、日本の歴史はそうではありません。

日本には人権に関する立法事実は(他国と比べて)非常に少ないと言えますが、とは言うものの、過去には同和問題がありました。終戦までは、随分と貧しくて教育環境も悪く大きな経済格差のある地域がありましたので、戦後は同和对策法で随分と同和对策がされてきましたし、現在は、そういった様々な格差はなくなったと言えます。法によって救われる側面はありますが、一方、法が利権を生んでしまって逆の格差が生じる危険もあります。同

和の方々に対する行き過ぎた保護は、逆にそれ以外の方々の不平不満の元となりますし、差別を糾弾する運動が暴力的になって事件に発展することもありました。

私は同和差別解消法の責任者として法案を作って成立させましたが、その際に、様々な団体（日本共産党系、旧社会党系、自民党系）が支援・支持・推薦する識者を国会に招いて参考人質疑をしました。彼らは、同和問題はもう解消しているからあえて法的な措置をする必要はない旨の発言を異口同音にされましたし、法律を成立させることで誰かを糾弾するといった逆の圧力をかける装置にしては絶対にならないという旨の彼らの発言が議事録に記された上で成立しました。その後、今に至るまで同和問題に関するトラブルは一切発生していません。私は、LGBT 法案についても、そういった方向での成立をさせるべきと思います。

LGBT の当事者たちが生き辛いようなことは多少はあったでしょうが、そういった人々も皆で認めて共に生きていこうとの理念法にとどめるべきですし、禁止規定を設けたり、学校での LGBT 教育を努力義務として課すといったことをすると、却って対立と差別を生み出してしまいます。しっかりと国会で議論をして議事録に残しながら、慎重に前に進んでいかなければなりません。

LGBT 問題が二度と俎上に載せられることなく、（対立ではなく）調和を重んじる日本にふさわしい形にまとめるべきですし、そういった方向で今議論をしていることをご理解ください。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>